

群馬県商店街振興組合連合会

人が集まる商店街づくりを目指して

研修会・新年会を開催



熊倉浩靖氏

群馬県商店街振興組合連合会（今川守会長 会員15組）では、2月13日、渋川市伊香保町・塚越屋七兵衛において研修会と新年会を開催した。

研修会は、群馬県立女子大学教授で同群馬学センター副センター長の熊倉浩靖氏を講師に迎え開催。テーマは「ぐんま まちづくり、ビジョンと中心商店街の役割」。

熊倉氏は、群馬県の高齢化率は、高度経済成長期においては他の首都圏の自治体と横並びだったものの、昭和45年からは首都圏で最も高い数値を示していると説明。また、郊外化が進み、中心市街地は、



人口減少・高齢化のダブルパンチを受けているため、中心市街地で商業活動を行うということは、非常に非効率な状況を強いられる旨を解説した。そして、こうした事態に陥つたのは、都市計画に対する行政の責任もあると指摘。モータリゼーションの進展により居住地域が広がり、中心市街地の人口密度の低下を招いたことも中心市街地の衰退の要因と説明した。また、こうした都市構造の変化によつて、車を使わない高齢者などの利便性が低下し、「買い物弱者」という新たな社会問題も引き起こしていることを訴えた。

研修会終了後には、恒例の新年会が開催され、今川守会長が主催者挨拶に立った。次いで、群馬県産業経済部商政課長須藤文規氏による来賓挨拶の後、商業係長齋藤慎一氏を来賓として紹介した。その後、中島庸一副会長の乾杯で開宴。地域を超えた交流・懇親が図られ、会員間の親睦を深め盛会裏のうちに終了となった。



須藤文規課長

こうした中、今後目指すべき街づくりの方向性は、「緩やかなコンパクト化」であり、時間をかけて中心市街地に施設・居住機能を集約させることが重要であると強調した。そして、商店街に求められる役割は、商業機能だけでなく社会福祉・教育などの機能を持ち、人事・生活といったアナログな情報の集積地となることで、人が集まる商店街を形成していくことが望まれると講演を締めくくった。

群馬県機械金属工業協同組合連合会

人口6億人弱を抱え、急速に発展する ASEAN諸国を学ぶ

～講習会・新年会を開催～

群馬県機械金属工業協同組合連合会（三宅正俊会長、会員9組合）では、2月15日、前橋商工会議所会館において、講習会及び新年会を開催した。

講習会では、「ASEAN諸国の現状と進出の動向」をテーマに、（株）フォーバル執行役員・海外事業グループ長の有賀正宏氏に解説頂いた。



有賀正宏氏

■ASEAN&メコンの特徴

ASEANは人口6億人弱を有する世界最大規模の地域統合体で、2015年には地域内の国々の関税が撤廃される。対日感情は良好で勤勉、まじめ、手先が器用な若年労働者が多い。現在、特に注目されているのが「メコンエリア」で、カンボジア、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーの5カ国。港湾、道路などの物流インフラの整備が急速に進められており、今後、日本へのアクセスも良くなる見込みである。

■メコンエリア諸国の様子

〈カンボジア〉

アパレル産業など労働集約型の企業に適した地域。都市部と農村部との経済格差や教育格差が広がっており、地震、貧困、治安悪化などの問題も残る。

〈ベトナム〉

メコンエリアでナンバーワンの人口を有し、60%以上が30歳以下。しかし、インフレが続ぎ、最低賃金も中国に比べれば低いが上昇傾向で、裾野産業も育っていないため現地調達率は低い。

〈ラオス〉

物流のハブ拠点として注目されている。石炭、天然ガス、金等の地下資源の宝庫で、資源開発企業の進出が増加。日本の0.9倍の国土面積であるが人口は650万人と少なく、労働力確保の面等で課題も多く、ラオスだけの進出はリスクが高い。

〈タイ〉

自動車関連企業の進出が多く現地調達率も高いが、ローカル企業の技術力が上がっているため競争が激しく、中小企業の進出リスクは高い。加えて最低賃金の上昇とサービス業の増加でワーカーの雇

用確保も困難な状況。

〈ミャンマー〉

日系企業進出のための優遇制度も整備されつつあるが、電気、ガス等のインフラ整備の遅れもみられ、現状では製造業の進出は難しい状況。



講習会終了後には、新年会が開催され、まず主催者を代表して三宅会長が挨拶。次いで、群馬県産業経済部副部長の林保雄氏、群馬県産業支援機構理事長の三澤益巳氏より祝辞をいただき、商工中金前橋支店長の中島潔氏の首頭で乾杯となり、終始賑やかな雰囲気での交流・懇親が図られた。



和やかな懇親会